



あるある情報

先日、カープの赤松選手が引退されました。胃がん克服の為、長く辛い闘病生活やリハビリを乗り越え、2軍の舞台に帰ってきた時は、「がん」を経験した人達に限らず、数多くの人々が感動し、勇気をもらったことでしょう。「がん」という病気は一人で闘うにはあまりにも辛く苦しいものですが、あきらめずに前向きに頑張っている人がいるとわかるだけで、とても心強く励みになります。今後も赤松選手には、「がん」の経験者としても、益々活躍してほしいですね。

ありがとう!

守備と走塁のスペシャリストとして活躍した赤松選手。スタンドに入りかけたホームラン性のボールを、フェンスによじ登ってキャッチした超ファインプレーは今でも忘れられません。「がん」と闘う姿も、ガッツ溢れるプレースタイルそのものでした。

こころの駅舎 がん患者 “あるある”かわら版

「がんフォーラム」に参加しました!

2019年10月5日(土)NTTクレドホールで「がんと生きる〜こころとからだ わたしらしく」が開催されました。

(主催)NHK厚生文化事業団 NHKエンタープライズ 読売新聞

当日「こころの駅舎」は、がん患者団体として展示スペースをいただき、「あるあるかわら版」や小冊子、チラシなどの展示配布を行いました。(写真)

第1部では、「最新がん治療」をテーマに、広島大学大学院 医系科学研究科 消化器・移植外科学 教授 大段秀樹先生が、がんの治療特に免疫療法について紹介してくださいました。またJA尾道総合病院 診療部長・内視鏡センター長 花田敬士先生は、地域ぐるみで膵臓癌の早期発見・早期治療に取り組んでおられる尾道の取組み(尾道方式)についてご紹介くださいました。


第2部では、「がん患者を支える」をテーマに、県立広島病院 がん看護専門看護師 岩見加奈子さんが、がんに伴う痛みの緩和や、がん患者・家族を支える集いの重要性について、事例を通してお話くださいました。

また、認定NPO法人乳がん患者友の会きらら 理事長 NPO法人 広島がんサポート 副理事長 中川圭さんは、がん患者の立場から、がん治療やがん患者の支援について、体験を通して語ってくださいました。

がん患者さんや家族は、一人では抱えきれない不安や悩み、痛みなどを感じています。仲間と語り合うことで少し気持ちが軽くなることもあるでしょう。「こころの駅舎」は、「支える」者の一人として、がん患者さん・家族と共に歩んでいきたいと思ひます。



“4コマ漫画”に込めた思い

 4コマ漫画には「こころの
 駅舎」に参加されているがん
 患者さん・ご家族を中心に、
 患者さんを支える医療スタッ
 フなどが登場しています。
 ユーモラスに描かれるがん患
 者さんの日常(療養)生活
 のひとコマが「こんなこと“ある
 ある”」「こんなことがあるん
 だ・・・」と、がんに対する理解
 を深めるきっかけになればと
 願っています。



*漫画を描いてくださっている さっちょこ
 さんは、がん患者さんのご家族です。

■ 毎月第4木曜日

■ 開催形態

イベント型(4月、8月、12月)

[時間] 14:00 ~ 15:30

定期型(上記以外の月)

[時間] 14:00 ~ 18:00

■ 東広島芸術文化ホール くらら

東広島市西条栄町7番19号



*「がん患者“あるある”かわら版」小冊子に
 についてのお問い合わせは、
 (一社)東広島地区地域連携室あざれあ
 にお問い合わせいたします。



第16号(令和元年10月31日)

こころの駅舎発行



〈事務局・発行協力〉
 一般社団法人 東広島地区医師会
 地域連携室あざれあ
 電話：082-493-7360
 FAX：082-493-7361

